



第20回テーザー全日本選手権 (津) Photo by Ishimaru

CONTENTS



2005 年度年次総会議事録／ワールドカウンシルレポート
 TASAR OF THE YEAR 2005 途中経過

新年会 in 東京のご案内

【公示】ミッドウィンターレガッタ

オータムレガッタ

第20回全日本選手権

連載

スマートレースのススメ ⑤

メジャー通信

マイラーセール導入とクラスルール変更

WORLD TOPICS 《海外情報》

編集後記





巻頭言 環境フラッグ

会長 本吉讓治



日本の人口出生数が死亡数を下まわり、1899年に人口動態統計をとりはじめて以来初の自然減になったという。

とはいうものの、世界的に見れば日本がこれから直面する少子高齢化社会とは逆に、地球上の人口は現在でも圧倒的な勢いで増え続けており、今や世界の人口は64億人を超え、将来は90億に達するとも言われている。

こうした世界人口の増加は資源の枯渇、食料難、貧困といった状況を生み出す一方で、同時に地球温暖化、海洋汚染といった環境問題を引き起こす要因ともなっている。そしてこれらの環境問題は相互に関連しあいながら、徐々にその深刻さを増しているように思える。

沈没したり座礁した船舶から流れ出した重油が、周辺国の海岸を汚染してしまうといった例のように、ある特定地域で発生した汚染が周辺地域にも影響を及ぼす例は枚挙にいとまがない。最近では中国吉林省にある化学工場の爆発によるニトロベンゼン流出の報道が新しい。この汚染物質は松花江を経てアムール川に至り周辺のロシア住民を脅かす結果となっている。さらに春になって凍っていた川が溶け出すようになれば、汚染物質は再び川を下り始め海に流れ出してゆくだろう。そしていずれは海流に乗って日本の沿岸にも流れ着き被害をもたらすかもしれない。

環境問題は、決してある特定地域の政治的あるいは経済的な問題ではなく、人類が等しく平等に享受すべきはたまた保全すべき共通のテーマである。もしも環境という言葉が曖昧でそこに多くの考え方の違いや言い訳をつくってしまうのであれば、これを水と空気とおきかえてみるよい。現在ある私たちの繁栄が水と空気によってもたらされていることに異論をはさむ余地はあるまい。ところが我々が当たり前とっていたその安全でおいしい空気と水が、最近では当たり前でなくなりつつある。

年末に旅したネパールの首都カトマンズは遠くにヒマラヤを望む人口100万人程の都市であるが、自動車の排気ガスによる公害は想像を絶するもので、交通整理をする警察官をはじめ一般市民までが粉塵用のマスクをして街を歩く光景は異様であった。私も目、鼻、喉に痛みを感じ、頭痛に悩まされた。

地球上の人々が安全で美味しい水と空気を手に入れるためには、その源泉となる地球環境を維持してゆかなければならないことは自明の理である。地球汚染が自然の再生力を上回り、傷ついた地球の自然治癒力が失われてしまう前に、私達一人一人が問題意識を持ち行動すべき時期に来ているのではないだろうか。

昨年日本テザー協会ではJSAFの環境キャンペーンに賛同し、ワールド開催の地ダーウィンそして全日本を開催した津の空にキャンペーンフラッグを掲げた。

風をたよりに艇を操るセーリングは環境に優しいスポーツと言われている。私達は常々風を波をそして潮を感じつつ自然のなかでセーリングを楽しんでいる。そんな私達セーラーが率先して環境を保護してゆくことは、まさに自然な成り行きだと思うのだが…。

イベントスケジュール

Events

イベント情報

イベントに関するお問い合わせ

JTA イベント担当 赤井まで
mail: event@tasarjapan.org



2005 年度

2/04(土) テーザー新年会 in 東京

2/19(日) ミッドウィンターレガッタ (稲毛) P* 参照

今年度最後の公式戦はミッドウィンターレガッタです。
詳細は P9 の実施要綱をご覧ください。

2006 年度

4 月 スプリングレガッタ (葉山)

7 月 西日本選手権 (芦屋)

8 月 ミッドサマーレガッタ (猪苗代)

9 月 オータムレガッタ (江ノ島)

10 月 全日本選手権 (江ノ島)

2 月 ミッドウィンターレガッタ(稲毛)

「テーザー新年会 in 東京」のご案内

今年も恒例の「テーザー新年会 in 東京」を下記のとおり開催いたしますので
ご家族、ご友人をお誘い合わせの上、皆様奮ってご参加ください。

今年は土曜日開催となりますので、関西方面からの参加も大歓迎です。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日 時： 2006 年 2 月 4 日(土) 17:30～

場 所： 中国料理「桃貴楼」

千代田区永田町 2-12-4 山王興和ビル トスラブ赤坂

http://www.its-kenpo.or.jp/its_2/kenshin/akasaka/index.html

TEL 03-3504-0300

会 費： 4,000 円 (予定)

幹 事： 稲毛フリースト 亀山

参加ご希望の方は、氏名、同伴者の有無、連絡先を明記の上、
下記までメールでお申込みください。

(※レター発行日の関係で直前のご案内となりましたがご了承ください。)

申込み先： h-kame@mub.biglobe.ne.jp

当日連絡先：090-1806-2757 (亀山)

ワールドテザーカウンスル(WTC)ミーティングが2005年7月4日、ダーウィンセーリングクラブにおいてオブザーバーを含め30名程で開催された。WTCメンバーの紹介、ヴィクトリア(カナダ)における2003年WTCミーティングの議事録承認に引き続き、各メンバーによるレポートが報告された。

その後、私達にとっても大きな関心事であるマイラーセールの採用に関する動議がなされ、WTCの承認を受けて今回のJTA総会の採決に到っている。

また、日本からは次回ワールドの開催場所と時期並びにWTCにおける議決権のあり方に関する提案を行った。

1. 次回ワールド開催に関して

- (1)2007年ヨーロッパ開催はできない(ウド氏より説明)
- (2)日本は2007年に開催はできない。2008年以降であれば可能(当初予定は2009年)

以上の回答を踏まえて、後日やりとりの結果日本から以下の4つのオプションを提案した。

1. 2008年 日本
2. 2006～2007年 パース、2008年 日本
3. 2006～2007年 ハワイ(*1)、2008年 日本
4. 2007年 ハワイ(*1)、2009年 日本

(*1)ハワイ:カネオヘヨットクラブ
<http://kanecheyachtclub.com>
ハワイにかえてタイも検討中

2 について:

2006-2007年の年末年始にパースで行われる全豪選手権を世界選手権にグレードアップする案。

3 について:

全豪選手権と重なる為、多くの参加艇を見込めない。

4 について:

2007年9月のホストクラブのチャンピオンシップ開催時期に開催する案が有力。ハワイ開催についてのレポートは以下に掲載中。

Update on 2007 Tasar Worlds in Hawaii

http://www.members.shaw.ca/raspencer/news/2006/kaneohe_1.html

Comments on a Worlds at Kaneohe from Jonathan McKee
http://www.members.shaw.ca/raspencer/news/2006/mckee_kaneohe.html

2. WTCにおける議事権のあり方に関する提案

現在、各リージョンに登録されているメンバー数と議決権には最大7.5倍の格差があり、この不均衡を正すことがテザークラスの将来の発展のために重要であるとの考えを示し、今後も議論を高めてゆくことで了解を得た。

議事録(原文)は以下でご覧になれます。

<http://www.members.shaw.ca/raspencer/association/worldassoc/minutes/wcmin05.html>

2005年度 日本テザー協会 年次総会議事録

本年度の総会は三重・津での全日本選手権の初日開催されました。風と波の強いレースの後で選手・運営のみなさんは疲れもあったようですが、多くの方々にご参加いただくことができました。マイラーセール導入アンケート、クラスルール変更、次回ワールドなどについて活発に議論が行われました。

日時: 2005年11月19日(土) 18:00～19:00
場所: 三重県津市 伊勢湾海洋スポーツセンター大会議室
司会: 金子副会長

<出席者>

出席者数: 42人、委任状数: 11人、合計: 53人
(オブザーバ: 18人)
会員総数の1/3以上が出席として総会が成立。
理事: 本吉、金子、小松、安澤、赤井、石丸

<議題>

1. 2005年度活動報告
2. 2005年度決算報告
3. WTC報告、次回ワールドについて
4. クラスルール変更投票
5. クルーウェイト国内ルールの評価及び継続の是非について
6. 2006年度活動予定(案)
7. 2006年度予算(案)
8. 次期会長選出(理事改選)
9. その他

2005年度活動報告(赤井)

4月のスプリングレガッタから全日本までに、計4回の公式レースを実施。

(1)スプリングレガッタ(葉山)

4月30日(土)～5月1日(日) 参加艇数30艇

2765 稲毛フリート田中夫妻組(成績:5-1-1-1-2-4)が3回のトップと、安定した走りでの優勝。

(2)西日本選手権(芦屋)

7月17日(日) 参加艇数 20 艇

2743 北港フリート臼杵/鳥井組(成績:3-3-1)が初優勝。

(3)ミッドサマーレガッタ兼東北選手権(猪苗代湖)

8月21日(土)~22日(日) 参加艇数 16 艇

朝は無風、午後からの微風で2レース実施。2669 稲毛フリート平生夫妻組(成績:1-2)が初優勝。

(4)オータムレガッタ(江ノ島)

10月16日(日) 参加艇数 27 艇

風雨の中3レースを実施。2565 葉山フリート本吉/神内組(成績:1-2-2)が優勝。

(5)全日本選手権(津 YH)

11月19日(土)~20日(月) 参加艇数 35 艇

(6)ミッドウィンターレガッタ(稲毛 F)

2006年2月 2005年度の最終イベント。

Tasar of the Year 最優秀選手賞

2004年度のTasar of the Year 最優秀選手賞は、2年連続で葉山フリートの関口真秀さんが受賞。皆勤賞は葉山フリートの山本さんと中島さんが受賞。

最優秀選手賞として、初代 JTA 会長の吉川さんのご厚意により、昨年 JSAF 功労者賞を受賞された際に授与された銀杯を冠にあしらい、特別に持ち回り杯を制作。

(ニュースレター 83号参照)

ダーウィンワールド

7月1日(金)~7月9日(土): オーストラリア・ダーウィンセーリングクラブにて過去最高の131チームが参加した世界選手権が開催され、田中郁也/紀子夫妻組が3位に入賞。海外の世界選手権では日本チームとして過去最高位。田中夫妻は年齢別のマスタークラスでも優勝。大会中、2回のトップフィニッシュをするなど大活躍し、日本のレベルを世界にアピールした。日本からは11チームがエントリー。

(ニュースレター 84号参照)

マイラーセールトライアル

テストセーリング用のマイラーセールが8月19日、日本に到着。各フリートでテストセーリングを実施。

エコキャンペーン

日本テザー協会では JSAF が進めているエコキャンペーンに呼応し、協会の公式イベントにおいて、年間を通じて環境問題を取り上げている。まずは海の美化の観点から、帆走指示書に「陸上、洋上を問わず、ごみ投棄を禁ずる」の文言を入れている。

2005年度決算報告(小松)

期中のため中間報告となっている。

JSAF 全日本補助金:10万円 本吉会長の尽力による

(決算報告書は年度末に会員宛に別途送付予定)

[原案通り承認]

WTC・次回ワールドについて(本吉)

(詳細は P4 掲載のワールドテザーカウンシルレポートを参照)

マイラーセールの動議

金子理事より説明

次回ワールド開催について

4つの開催地・時期のオプションについて会員の意向確認

オプション 4(2007年ハワイ、2009年日本)が多数

日本の意向として報告

ハワイでの開催の場合、日本、北米、豪州がそれぞれサポートしなければならないだろう

WTCにおける議決権について

各国協会、および州協会(豪州)で議決権格差がある。

豪州内は7.5倍

次回 WTC 総会に向けて議論を深める

クラスルール変更投票(金子)

(提案内容はレター、ウェブサイトでアナウンス済み。以下を参照)

<http://tasarjapan.org/news/2005/news050829.pdf>

本総会で投票を実施

各リージョン協会の採決で全リージョンの2/3以上で可決。

アンケート結果は tasarjapan ML で報告(11/4)。

マイラーセールに乗ってみたいか

多数の人が乗ってみたいと考えている。

豪州協会の取り組み

マイラーセールは来年1年間公認しない

パースの全豪選手権が最初の公認レース

質疑応答

Q. クラスルールが変更されたらマイラーしか使えないのか?

A. 提案されている変更はダクロンとマイラーとの混在を認めている。

Q. メインとジブが違う素材でもよいのか?

A. 交換ジブは同一素材でなければならない。

Q. マイラーのセールエリアはかなり大きいのではないのか?

A. デザイナーに委ねられている。

投票結果

A. ハル重量の下限值 68kg

賛成 43 反対 10 無回答 1

B. マイラーセールスの導入

賛成 31 反対 21 無回答 2

マイラーセールスに関するクラスルール変更

賛成 28 反対 24 無回答 2

日本協会としては以上すべて賛成という結論となった。

WTC のスペンサー氏には 21 日に結果報告済み。

クルーウェイト国内ルールの評価 及び継続の是非について (金子)

経緯

- ・ 2003 年全日本の総会でクルーウェイトルールを 2004 年大会に適用しないことを決議。
- ・ 2004 年総会で引き続き 2005 年も C.6 を適用しないことを決議
- ・ 2002 ~ 2004 年の全日本のレース結果とクルーウェイトの相関を分析。
- ・ 2004 年 12 月のニュースレターで分析結果を発表。
- ・ 2005 年 7 月ダーウィンワールドのメジャラー会議で分析結果を発表。
- ・ ワールドカウンシルでクルーウェイトルールの見直しを検討される予定。

クルーウェイトとレース結果の分析結果

開催年	参加数	平均体重	最重量	最軽量	C.6	風速	場所	相関係数
2002	46	132.1kg	152.2kg	102.8kg	適用	1-10m/s	稲毛	+0.053
2003	54	131.4kg	154.0kg	99.6kg	適用	1-10m/s	葉山	+0.005
2004	31	126.2kg	155.0kg	100.0kg	非適用	2-6m/s	芦屋	-0.020

相関関係が見られたレース

開催年	レース	相関係数	風速	C.6
2003	race5	-0.45	8-10m/s	適用
2002	race1	+0.32	3-4m/s	適用
2004	race6	-0.24	2m/s	非適用

開催年	上位グループ	中位グループ	下位グループ	C.6
2002	-0.01354	-0.0164	-0.28321	適用
2003	-0.04104	-0.38631	-0.07657	適用
2004	+0.51729	-0.79892	+0.30109	非適用

開催年	130kg以下	130kg以上	C.6
2002	-0.13211	+0.50058	適用
2003	-0.0147	+0.03482	適用
2004	-0.41614	+0.00981	非適用

開催年	120kg以下	120-130kg	130-140kg	140kg以上	C.6
2002	-0.77761	+0.05808	+0.42369	+0.30513	適用
2003	+0.23417	-0.42648	+0.22746	-0.16135	適用
2004	+0.23058	-0.44509	-0.21118	+0.14694	非適用

- ・ 実力が伯仲している上位グループではクルーウェイトの差が成績に表れやすく、クルーウェイトルールを適用しない場合は軽量チームが速い傾向が見られる。
- ・ 理想的なクルーウェイトはデザイン値である 130kg 前後であると考えられ、それより軽いチームも重いチームも全般的に遅くなる傾向が見られる。
- ・ 総合成績トータルで見るとクルーウェイトと成績には相関関係が見られない。
- ・ クルーウェイトルールを適用してもしなくても、総合成績には大きな違いが見られない。

国内ルールの適用を継続するかどうか

拳手による賛成多数で来年以降も継続する (C.6 は適用しない) ことを決議

2006年度活動予定案 (赤井)

来年度の国内公式イベント

- 4月 スプリングレガッタ (葉山 F)
- 7月 西日本選手権 (芦屋 F)
- 8月 ミッドサマー兼東北選手権 (猪苗代・JTA)
- 9月 オータムレガッタ (江ノ島 F)
- 10月 or 11月 全日本選手権 (江ノ島 F を予定)
- 2月 ミッドウィンターレガッタ (稲毛 F)

会員よりコメント

猪苗代でのレースについては東北選手権という呼称ははずしたほうがいいのではないかと。

理事会で検討する。

12月の理事会で議論され、2006年度からは「ミッドサマーレガッタ」という名称にすることに決定

2006年度予算案 (小松)

[原案通り承認]

次期会長選出

本吉会長から次期会長として金子副会長が推薦された。

[拍手にて承認]

その他

ワールド準備委員会の立ち上げ

本吉会長がとりまとめ。サポートして下さる方はぜひ本吉会長まで

(記録: 岡 誠)

順位	NAME	FLEET	JTA R数	スプリング					西日本					ミッドサマー					オータム					全日本					RP	TP
				葉山(4/30,5/1)30艇					芦屋(7/18)20艇					猪苗代(8/21.22)16艇					江ノ島(10/16)27艇					津(11/19.20)35艇						
				RR	RP	CP	VP	TP	RR	RP	CP	VP	TP	RR	RP	CP	VP	TP	RR	RP	CP	VP	TP	RR	RP	CP	VP	TP		
57	田口 公一	江ノ島	1		0		0	0		0		0	0		0		0	0	10	18		0	18		0		0	0	18	18
57	山崎 映子	西宮	2		0		0	0	13	8		0	8		0		0	0		0	0	0	28	8		2	10	16	18	
60	田口 裕介	葉山	2		0		0	0		0		0	0		0		0	0	27	1		1	2	24	12		3	15	13	17
61	徳田 幹太	大阪北港	1		0		0	0		0		0	0		0		0	0		0	0	0	22	14		2	16	14	16	
61	玉置 淳	芦屋	1		0		0	0		0		0	0		0		0	0		0	0	0	23	13		3	16	13	16	
63	南屋 恵美子	芦屋	1		0		0	0	6	15		0	15		0		0	0		0	0	0		0		0	0	0	15	15
63	東 慎二	浜名湖	1		0		0	0		0		0	0	5	12		3	15		0	0	0		0		0	0	0	12	15
65	多井 堅一郎	葉山	4	27	4	3	0	0		0		0	0	16	1		2	3	26	2		1	3	31	5		3	8	12	14
66	野本 雅史	葉山	3		0		0	0		0		0	0	16	1		2	0	24	4		1	0	27	9		3	12	14	12
67	中村 博士	芦屋	1		0		0	0		0		0	0		0		0	0		0	0	0	28	8		3	11	8	11	
68	田中 聡子	稲毛	1	22	9		1	10		0		0	0		0		0	0		0	0	0		0		0	0	0	9	10
68	鈴木 章弘	芦屋	2		0		0	0	19	2		0	2		0		0	0		0	0	0	31	5		3	8	7	10	
70	宮本 哲生	稲毛	1		0		0	0	16	5		3	8		0		0	0		0	0	0		0		0	0	0	5	8
70	下村 晃司	芦屋	1		0		0	0		0		0	0		0		0	0		0	0	0	31	5		3	8	5	8	
72	渡辺 克充	芦屋	1		0		0	0	14	7		0	7		0		0	0		0	0	0		0		0	0	0	7	7
73	角野 朋子	芦屋	1		0		0	0	15	6		0	6		0		0	0		0	0	0		0		0	0	0	6	6
74	高橋 徹	江ノ島	1		0		0	0		0		0	0		0		0	0	23	5		0	5		0		0	0	5	5
74	末澤 一夫	芦屋	1		0		0	0	16	5		0	5		0		0	0		0	0	0		0		0	0	0	5	5
74	相馬 大輔	葉山	1	29	2	3	0	5		0		0	0		0		0	0		0	0	0		0		0	0	0	2	5
77	抜井 由紀子	芦屋	1		0		0	0	18	3		0	3		0		0	0		0	0	0		0		0	0	0	3	3
78	米倉 和宏	稲毛	1	5	26		1	0		0		0	0		0		0	0		0	0	0		0		0	0	0	26	0

Tasar of the Year 凡例:

- RR : Race Result (レース順位)
- RP : Race Point (レース成績点=参加艇数-順位(RR)+1)
- CP : Committee Point (運営参加点=参加艇数*0.8)
- レースも出た場合=参加艇数*0.1
- : JTA未加入期間

Visiting Point (遠征点:距離による遠征ポイント)計算

- 5点 : 1200km以上
 - 4点 : 700km以上1200km未満
 - 3点 : 400km以上700km未満
 - 2点 : 150km以上400km未満
 - 1点 : 150km未満
 - 0点 : 本拠地
- # 所属フリート若しくは艇の保管場所と自宅が150km以上離れている場合、遠征ポイントは自宅からの距離を対象とする。

遠征距離計算

	最寄IC	葉山	江ノ島	野比	稲毛	浜名湖	琵琶湖	大阪北港	芦屋
葉山	逗子IC	NA	約 10 km	約 10 km	約 100 km	約 250 km	約 500 km	約 550 km	約 550 km
江ノ島	逗子IC	約 10 km	NA	約 20 km	約 100 km	約 250 km	約 500 km	約 550 km	約 550 km
野比	逗子IC	約 10 km	約 20 km	NA	約 100 km	約 250 km	約 500 km	約 550 km	約 550 km
稲毛	幕張IC	約 100 km	約 100 km	約 100 km	NA	約 300 km	約 550 km	約 600 km	約 600 km
浜名湖	浜松IC	約 250 km	約 250 km	約 250 km	約 300 km	NA	約 250 km	約 300 km	約 300 km
琵琶湖	大津IC	約 500 km	約 500 km	約 500 km	約 550 km	約 250 km	NA	約 70 km	約 70 km
大阪北港	舞洲IC	約 550 km	約 550 km	約 550 km	約 600 km	約 300 km	約 70 km	NA	約 20 km
芦屋	西宮IC	約 550 km	約 550 km	約 550 km	約 600 km	約 300 km	約 70 km	約 20 km	NA

	最寄IC	葉山	江ノ島	野比	稲毛	浜名湖	琵琶湖	大阪北港	芦屋
葉山	逗子IC	0 P	1 P	1 P	1 P	2 P	3 P	3 P	3 P
江ノ島	逗子IC	1 P	0 P	1 P	1 P	2 P	3 P	3 P	3 P
野比	逗子IC	1 P	1 P	0 P	1 P	2 P	3 P	3 P	3 P
稲毛	幕張IC	1 P	1 P	1 P	0 P	2 P	3 P	3 P	3 P
浜名湖	浜松IC	2 P	2 P	2 P	2 P	0 P	2 P	2 P	2 P
琵琶湖	大津IC	3 P	3 P	3 P	3 P	2 P	0 P	1 P	1 P
大阪北港	舞洲IC	3 P	3 P	3 P	3 P	2 P	1 P	0 P	1 P
芦屋	西宮IC	3 P	3 P	3 P	3 P	2 P	1 P	1 P	0 P

ミッドウィンターレガッタのご案内

Notice

レース公示

2005年度の最終戦は、稲毛でおこなわれるミッドウィンターレガッタです。
ただ今以下にてオンラインエントリー受付中です。皆さん奮ってご参加ください。

<http://tasarjapan.org/events/events.html>

実施要綱

1. 主催 日本テザー協会
2. 後援 千葉県セーリング連盟
3. 協力 稲毛ヨットハーバー
4. 開催場所 千葉市稲毛ヨットハーバー（沖海面）
5. 開催期日 2006年2月19日（日）
6. 競技種目 テザー級
7. 日程 2月19日（日）
8:00 ~ 受付
9:00 ~ 開会式・艇長会議
10:30 第1レーススタート予告信号
引き続き第2、第3、第4レースを実施
16:00 ~ 閉会式・表彰式

8. 適用規則

2005～2008年国際セーリング競技規則（以下、規則という。）日本セーリング連盟規定、テザークラスルール及び帆走指示書を適用する。ただし、テザークラスルールC.6は適用されない。

【参考】 C.6 クルー重量

C.6.1 テザーは全ての公認大会のレース中、クルーの総体重が最低130kgなければならない。計測時の服装は、乾燥したシャツとショーツまたは水着、あるいはこれらと同等のものでなければならない。靴は脱いだ状態とする。

C.6.2 このように計測して、合計で130kg以下であるクルーは、大会期間中を通して少なくとも130kgとの差に相当する重さのバラストをコクピットに搭載すれば、レースに参加してもよい。このバラストは12kgを超えて搭載する必要はない。

9. 責任の所在

本大会の主催者、関係団体及びレース委員会は、人員及び物件に対するいかなる責任も負わない。また、スタートするか、あるいはレースを継続するかどうかを決める責任は各艇にある。

10. 参加資格

乗員の少なくとも1名が2005年度のテザー協会会員であり、指定された期日までにエントリーしたものであること。

11. 帆走指示書の交付

稲毛ヨットハーバー修理庫前に設置される大会本部にて19日（日）8:00～の受付時に交付される。

12. 帆走すべきコース

内角が60°の「風上-風下-トライアングルコース」を用いる。廻航方法は帆走指示書で示す。

13. 参加申込

(1) 参加料

1艇5,000円とし、受付時に徴収する。

(2) 艇の持ち込み料

艇を持ち込む場合には、施設利用料として1艇あたり1,000円を受付時に徴収する。

(3) 2006年2月11日（土）とする。ただし、期限以降もレイトエントリー費（1,000円）を支払えば参加申込を受け付ける。

(4) 参加申込

日本テザー協会ホームページからのオンラインエントリー、もしくは参加申込先にエントリー用紙をFAXすること。

・オンラインエントリー 日本テザー協会ホームページ
<http://tasarjapan.org/>

・TEL&FAX 03-3677-0868 池内 敏

14. レース及び得点方法

(1) 本大会は1レース以上行われれば成立とする。

(2) シリーズでは規則付則Aに規定された低得点方式を用いて得点を記録する。ただし、最も悪い点は除外しない。これは、規則付則A2を変更するものである。

15. 賞

総合1～3位賞を授与する。主催者はこれ以外の賞を設ける場合がある。

16. セール番号

チャーターボートについては、RRS付則G3により、艇の登録番号と同一でないセール番号（ただし、他の参加艇のセール番号と重複しないもの）の使用を認める。

17. 環境に関する規程

JSAF環境キャンペーンの趣旨に則り、陸上、洋上にかかわらず、レース参加艇からのごみ投棄を禁ずる。

Racing

レース情報

オータムレガッタ



本吉・神内組優勝！

27艇がエントリーしたオータムレガッタは、10月16日（日）、秋雨の江ノ島で開催されました。今年も神奈川県セーリング連盟のTOTOレースに参加するかたちで、安定した北東からの風の中3レースが実施されました。優勝は1-2-2とほぼ独走した葉山の本吉／神内組、2位には浜名湖の白岩／石塚組、3位に葉山の小川／小松組が入りました。

オータムレガッタレポート

浜名湖フリート 白岩 道孝

10月16日（日）久しぶりに江ノ島にやって来ました。この前やって来たのはワールドカップサッカーが日本で開催されている時でした。参加したレースはレーザー関東選手権で戸田さんより3番くらい下の成績だったと思います。この二日間は風が強く波の低いところに入ると周りが見えない状況でした。しかしながら沈したのは1回だけだったと思います。このレースの後しばらくしてTASARに乗ることになったので現在3年目です。1年目は浜名湖で練習するだけ、レースは去年から参加しました。TASARに魅力を感じたのは2人乗りであることと、レーザー同様簡単に車の上に積めて遠征できることでした。1人乗りディ

ンギーは孤独感があり陸の上では仲間とよく「暗いスポーツだなあ。」と書いていました。それに対して2人乗りは会話ができ、レースの成績が悪くても「お前が下手だから」と言って責任転嫁。



気楽なものです。

さて今回のオータムレガッタは姉と参加する予定でしたが、姉は「疲れるからいや。」と言うので家が近くの石塚君を誘ってみました。一緒に参加してくれる

というので喜んで江ノ島にやって来ました。姉と参加するよりは良い成績をとれると思っていましたが、まさか2位になれるとは思っていませんでした。特に3レース目に1位を取れたのは大変うれしいです。

石塚君はいつもシーホッパーに乗っていて大変いい選手です。しかしウエイトが軽く58kgというのが残念なところです。今回オータムレガッタと一緒に参加してけっこういいヘルムスマンだと感じました。また私の体重が72kg、2人合わせて130kgですのでTASARに適していてよかったと思います。30年くらい前にスナイブのクルーをやっていたころはクルーワークに自身があったのですが、今はまったくダメでした。でも好きなクルーワークができて楽しかったです。神奈川の海は大好きなのでまたやって来たいと思います。

2005年度 オータムレガッタ

2005年10月16日 江ノ島

Pos	Sail No.	フリート / 水域	スキッパー	クルー 1	クルー 2	1R		2R		3R		Total
						着順	得点	着順	得点	着順	得点	
1	2395	葉山	本吉 譲治	神内 悠里		1	1	2	2	2	2	5
2	2707	浜名湖	白岩 道孝	石塚 恒志		4	4	3	3	1	1	8
3	2661	葉山	小川 雅	小松 充		3	3	6	6	3	3	12
4	2730	稲毛	宇佐美 成典	小田倉 里美		6	6	4	4	5	5	15
5	2396	葉山	山本 晴之	中島 玲子		2	2	7	7	10	10	19
6	2768	葉山	久礼 嘉伸	金子 直樹		7	7	9	9	4	4	20
7	2565	その他	小林 通博	及川 慎太郎		10	10	5	5	6	6	21
8	2762	江ノ島	赤井 寛	赤井 明日香		5	5	8	8	9	9	22
9	2621	葉山	山下 栄輝	島中 圭子		9	9	11	11	13	13	33
10	2652	江ノ島	山分 信	田口 公一		12	12	10	10	11	11	33
11	2709	葉山	野嶋 嘉昭	宮下 知之		OCS	27	1	1	8	8	36
12	2470	浜名湖	蜂須賀 強	望月 哲		13	13	12	12	19	19	44
13	2732	江ノ島	星野 直広	安田 貴美子		14	14	14	14	16	16	44
14	2720	葉山	建内 満	岡 誠		11	11	DNS	27	7	7	45
15	2575	葉山	石川 洋二	山口 剛史		17	17	16	16	12	12	45
16	2675	葉山	安原 実郎	戸田 隆久		15	15	15	15	15	15	45
17	2223	江ノ島	千波 正隆	村上 誠一郎		8	8	21	21	17	17	46
18	2726	葉山	伊藤 真人	瀧 隆太		21	21	13	13	18	18	52
19	2741	江ノ島	瀧本 浩一	塚原 郁郎		22	22	19	19	14	14	55
20	2203	葉山	外石 満	荒島 謙治	矢柴 明美	18	18	18	18	23	23	59
21	2748	葉山	石原 裕二	天田 和伸		19	19	22	22	20	20	61
22	2294	江ノ島	村尾 隆	津田 展明		20	20	20	20	22	22	62
23	2466	江ノ島	高橋 徹	猪瀬 達郎		25	25	17	17	21	21	63
24	2609	葉山	野本 雅史	田中 剛	城重 晶子	16	16	DNF	27	25	25	68
25	2552	葉山	大橋 武史	安藤 拓史	永尾 岳志	24	24	DNF	27	24	24	75
26	2453	葉山	多井 堅一郎	有持 祐之	町田 亜紀	23	23	DNF	27	26	26	76
27	2615	葉山	田口 裕介	森 理子		DNS	27	DNS	27	DNS	27	81



優勝 本吉/神内組 (葉山)



第2位 白岩/石塚組 (浜名湖)



第3位 小川/小松組 (葉山)

第20回 全日本選手権大会

小松・小川組 鈴鹿おろしを制す



Nov.19-20 Tsu Yacht Harvor

Photo by ISHIMARU

強風を走りきった実力派チームが上位を独占

11月19日～20日、記念すべき第20回テザー級全日本選手権大会が三重県津ヨットハーバーで開催されました。今回はテザーをより多くの人に知ってもらおうという意味もこめ、あえてフリートのない津での開催を試みました。初めての場所ということで当初心配された参加艇数も、関東以外での開催としては予想を上回る35チームが集まり、風に恵まれた津のすばらしいコンディションと相まって、ナショナルチャンピオンを決めるに相応しい大会となりました。

鈴鹿おろしに沈艇続出！

大会初日は真冬を思わせる気温。折からの重い北風がスタート時には海面全体に広がり、時折強い鈴鹿おろしが吹き込むという厳しいコンディションで第1レースがスタートしました。沈艇が続出し、帆走を断念しハーバーバックを決めるチームが多く出る中、今期国体シーホッパークラスで好成績をおさめ波に乗る浜名湖の弾丸ボーイズ長



谷川勝啓／有木洋介組が、タフな強風レースを快走。猛追した葉山の小松充／小川雅組を振り切りトップフィニッシュを果たしました。

続く第2レースは、風がやや落ち着く場面もありましたが、依然ガストがきつく、風軸から20度くらい左に振れる強烈なブローに翻弄され、またもや沈艇が続出。そんな中、浜名湖のホッパーセーラーがワンツーフィニッシュを決め大いにアピールしました。長谷川／有木組はこの日の2レースをオールトップとし、得意の強風レースで他艇を大きく引き離して初日を終わりました。

大会2日目、前日の冷たい強風から一転、ポカポカ陽気の軽風の中、第3レースがスタート。フラットな海面を各艇一斉に滑り出し、間もなく琵琶湖の秋山紀夫／高山勝組が抜け出しました。すばらしいボートスピードでフリートをリードしていましたが、レース後半にかけて徐々に風が弱まると、現チャンピオンで、7月の世界選手権でも3位入賞した稲毛の田中郁也／紀子組が追い上げ、そのままトッ

プでフィニッシュとなりました。

続く第4レースは更に風が弱まり、この微風レースを制したのはベテランと現役学連クルーのコンビ、葉山の本吉譲治／神内悠里組。軽い吹き出しを上手くつかみ船を止めずに滑らせたチームが上位に食い込みました。スーパーグランドマスタークラス（スキッパー、クルーの合計年齢120歳以上）でエントリーした最高齢にして永年の常連でもある葉山の安原実郎／戸田隆久組は、小さなパフを上手く使い順位を上げ、このレース堂々3位でフィニッシュしました。

これまでのところ、初日を除きレースごとにトップ艇が入れ替わるという混戦模様。気まぐれな風の第4レースを終えた時点で、優勝を狙ってひしめき合っていたリーディングフリートがシャッフルされました。次のレースが成立すると捨てレースが発生することから、上位5艇が3ポイント差でほぼ横並びとなり、最終レースを制したチームがレガッタを制するというシビレる展開となりました。

体力、スキルともに十分。 小松 小川組が優勝

風も安定して吹き始め、このまま軽風でスタートするかに見えた最終レース、北西方向に黒いブローラインを確認したのも束の間、スタート直前に左振れの爆弾ブローが降りて来ました。全艇、タックしてのポートスタート。10mを軽く超える強烈なガストが入り始め、最終レースはまさに全日本に相応しい強風レースとなりました。

そんな中、小松／小川組がセンスある展開ですばらしい走りを見せ、終始リードをキープ。強風では必ず上位に顔を見せる長谷川／有木組を抑えトップフィニッシュし2005



年の全日本選手権優勝を決めました。スキッパーの小松充選手は2002年稲毛大会の優勝クルーで、今回は若手クルー小川雅選手を擁して新しいチャンピオンとなりました。

準優勝は強風で圧倒的な強さを見せた長谷川勝啓／有木洋介組、第3位は2年連続チャンピオンであった田中郁也／紀子組となりました。

2日間の大会期間中、軽風そして強風とバラエティに富んだすばらしいコンディションに恵まれましたが、練習に多くの時間を費やし、また体力・スキルともに十分で、強風をきちんと走りきる実力のあるチームが上位を独占する結果となりました。

また、今回の全日本選手権は、三重県ヨット連盟をはじめ、レーザー津フリート、三重大学、津ヨットハーバーなど、地元の多くの方々の全面的なバックアップにより実現し、遠くから遠征した多くの選手を満足させるすばらしい大会となりました。ここにあらためてお礼を申し上げます。

(広報 石丸)



総合優勝 小松・小川組（葉山）



総合第2位 長谷川・有木組（浜名湖）



総合第3位 田中夫妻組（稲毛）



総合第4位 野嶋・宮下組（葉山）



総合第5位 本吉・神内組（葉山）



総合第6位&マスタークラス優勝
秋山・高山組（琵琶湖）



グランドマスタークラス優勝
内村・安澤組（芦屋）



スーパーグランドマスタークラス優勝
安原・戸田組（葉山）



遠来賞！
加野・河野組（博多）

「津」

葉山フリート 小松 充

今回の全日本については、特に順位目標はなく、ワールド3位という肩書きが定着した田中チームを含め、トップグループでレースして、チームの力をUPさせるという目的を重視していました。また、いつもの面々に加え、学生の頃、レーザーのトップセーラーとして知っていた秋山選手や川戸選手の参加もあり、初めての開催場所での全日本はとても楽しみでした。

さて、レース前日に葉山を出発し、小川くんと赤井さんと3人でドライブして、夕方に津に到着。早めの時間から旅行感覚で気分よく飲み食いし、明日のためにそろそろ帰ろうとしたところに、安澤さんから「1人なんだけど」とのお電話が…。結局、0時を回るまで飲んでしまい、翌朝はまだ昨日の酔いがそのまま続いている感じなので、早朝から貸切風呂を借りて、酒抜きをしてから、7時に会場へ向かい、運営ミーティングに参加しました。

今日はサバイバルレースになるので要注意との話でしたが、周りの選手は朝のいいお天気のにきな様子。しかし、やっぱり地元の方のお話はよく聞いておくべきなものでした。

出艇して、少々吹き上がり、第1レーススタートの頃には、かなり強いブローが入り始める…。これがなかなかやっかいなブローで、メインが使えないくらいのものも入り、シフトも強弱の差も大きく、すっかりサバイバルの様相。トラペラーシーティングでスタートしたものの、スタート直後のタックでミスして、長谷川・有木チームにあっという間に離され、途中でメインに切り替える。同世代の活躍についつい余計な力が入ったようで、

最初のサイドを周った辺りで、早くも右手が攀っている…。順位はシングルの後半くらいか。痛みを誤魔化しつつも、なんとか2位となり、最終レグでようやく長谷川チームを抜いてフィニッシュとなったと思った。しかし、2つの疑問があった。それは、長谷川チームが最終下マーク回航後に抑えに来ないでそのままポートで上って行ったことと本部船にブルーフラッグがなかったこと。これらは後に明らかになるのであるが…。

多くの艇がキャンセルした第2レース。



風は何故だか落ちている。5～6mくらいでのスタート。コースを欲張って突っ込み過ぎ、1上では後から5番目。その後、まともやサバイバルコンディションとなる。2上で少々挽回し、なんとか6位でまとめた。

第3レースは延期され、帰港。あまりの寒さに震えが止まらず、すぐにホテルへ。またまた貸切風呂を借り、体に血が通っていることを確認したところで、ハーバーへ戻り、総会の準備に取り掛かる。ホチキスのタマを取りに陸上本部へ行くと、今日の結果を入力しているので、覗き込む。が、何故か長谷川チームが1-1!? なんで? と確認すると、「第1レース? ああ、コース短縮したレースですね。」とのご返事。コース短縮で…。実は最後の下マークがフィニッシュだったとのこと。ほとんどの選手

が気付かず、本部船まで走っていたのでした。少なくとも長谷川チームは気付いていたが、念の為、本部船まで走ったのであった。あのフィニッシュライン用のブイはレスキューの都合上、先に打ってあったので、本部船にブルーフラッグがなかったわけである。

というわけで、初日のスコアは、長谷川チームが1-1の2pts、2位タイに我々を含む3チームが8ptsという状況となった。翌日もこのコンディションでは長谷川チームの優勝は揺るぎない雰囲気なので、2日目は軽風でトップグループのスコアが荒れることを望む。

総会を無事に終え、レセプションパーティーへ。松坂牛・伊勢エビ・その他もろもろのBBQ、おでんなどの汁物も充実した素晴らしいレセプション。みんな地元の方の手作り。大人も子供も手伝っている素晴らしいパーティーでした。お酒は飲まずに終える予定でしたが、中締めの際に、地元の方々と少々お話していると、陸上本部に移動して、なぜか焼酎を手にしていました。

翌日、希望通りの軽風となった。第3レースは、相変わらずスタートが良くないものなんとか無難に5位でまとめる。長谷川チームが成績を崩したので、少し優勝争いの様相が変わりつつある切欠を得た。

時間帯から考えると、第5レースまでが限界という感じだったので、第4レースは非常に重要なレースとなる。かなりの微風となり、途中、走りを少々乱してしまうものの、パフとシフトを拾いつつ、好位置をキープ。本吉・神内チームがダントツで1上を回航。続いて、安原・戸田チーム。少し遅れて我々とその後続がまとまって回航。後続と争わないように波で下ろして、安原チームに徐々に近づく。この時、長谷川チームと田中チームのポジションを確認。サイド下の途中で

安原チームに並んだ時に、「安原さん、葉山で1-2-3ですよ」と声をかけた。「よっしゃ」とはりきる安原さんの声が聞こえてくるようであった。ここは是非とも安原さんに3位をお任せしなくてはならない。次の上りでコース短縮となり、本吉チーム、我々、安原チームとフィニッシュし、続いて、内村・安澤チームが入り、なんとか勝負を最終レースに持ち越す。もう1チーム入ってくると良いのだが・・・というところに、大先輩の山本さんの雄姿が見えた。続いて、田中チームが6位。長谷川チームは第3レースの得点をカウントせざるを得ない結果となった。ここで、我々が一応単独首位となるが、カットやタイブレークを考慮すると、全く差とまらない1pts差で田中チームや長谷川チームが並ぶ。本吉チーム、野嶋・宮下チームが続き、この5艇が有力候補となった。

運営側も最終レースを時間的に確信し、周回数の多いコース1を選択。第5レースが始まった。

俄かに冷たい空気が流れ込み、あつという間に強風のコンディション。下よりの適当なところでスタートするが、スタート時にアウト側はかなりの下振れとなり、ポートに返す艇などでぐちゃぐちゃになる。我々もすぐに返したいが、すぐ上に長谷川チームがいたので、「タックして！」と声を掛け、両艇ともにタック。昨日の痛みはきちんととっておいたので、走りは悪くない。1上を長谷川チームに続いて回航し、そのままトップへ。下回航時にはほぼ不動の地位をものにする。ランで少し休憩をとり、次のクローズ、リーチングで

は、非常に良い精神状態で、イメージしたボートスピードを淡々と作っていく感覚だった。まさにフロー状態で走り抜け、トップフィニッシュとなった。

生涯初優勝が全日本となった小川くんは直後にはすでに興奮状態だった。競ったポイント差の中での最終レースは良い経験になったことだろうと思いつつ、帰港した。

2日間共に、帰着すれば、ぜんざいなどの暖かいものが用意され、運営の方々も気さくな方が多く、津のヨットハーバーの雰囲気は最高でした。いつもよりもリラックスしてレースに望めたのは、こうしたホスピタリティのおかげに他ならないと思います。海上運営も、あれだけのハードコンディション下でも、ベストを尽くされており、とても素晴らしかったと思います。津の皆様、本当にありがとうございました。

そして、今回運営で参加していただいた赤井さん、石丸さん、村尾さん、長野さん、瀧本さん、本当にお世話になりました。

ダーウィンワールドの1年前に、小川くんがチームとしての活動を始め、今春ぐらいからその練習の効果が現れ始めましたが、ワールドでは思うような結果は出せませんでした。課題を要約すると、チームの成熟度が足りなかったということに尽きます。



猪苗代・オータムとクルー・ヘルムスを交替し、実践的な場面での自分の考え方をクルーとしてやってみせることで伝え、それに関して協議し、練習の中でシミュレートしたり、2艇に分かれて、マッチレースをしたりしました。全日本は、そうしたワールド後に始めた改善策の最初のテストでしたが、短期間で数時間の練習を5回くらいしただけなのに、相当な成長ぶりを見せた小川くんには感心するばかりです。目的意識をきちんと持って、集中した練習ができたことが良い結果を結んだと思います。レース中の会話が噛み合ってきているし、互いのミスがしっかりフォローされてきていると思います。1度できたことを次も出来るかどうか、今後が問われるところですが、本当に満足した全日本でした。

また、長くなってしまった・・・(´・ω・`)

東工大に 垂れ幕登場？！



デラマンチャヨットクラブの末っ子、東工大4年の小川雅です。この度2005年の全日本タイトルを手にすることができたのは、デラマンチャの皆様や東工大ヨット部の後輩のみんな、それに



両親など多くの方々の応援やサポートあったのもでした。本当にありがとうございました。

津から帰りその話を大学に持ち帰ると、なんと垂れ幕を掲げていただけるとのこ

と！さらにトロフィーを持って学長へ報告しに行ったり、学長主催の祝賀会にもお招きしていただいたりと大変な祝福を受けました。ちなみに垂れ幕は大岡山キャンパスの正門からはもちろん、駅前からもバッチリ視界に入ります。学長にもすっかり顔を覚えていただきまして、「次は世界だな」と応援のお言葉までいただきました。

予想以上にまわりの反響は大きく、自分の活躍でこれほど多く人たちが喜んでもらえるとは思いませんでした。その喜びの輪の大きさが自分の喜びの大きさです。

これからヨットだけでなく人間としても自分を磨いて、大きな喜びを得るべく広く社会に貢献したいと思う次第です。デラマンチャの皆様や両親に甘えてばかりの問題児ですが、そういうわけですのでどうか長い目で見守っててください。テザー協会の皆さま、お世話になりますのでよろしくお祈りします。

小川 雅

全日本選手権 所感

全日本実行委員長 赤井 寛

第20回テザー級全日本選手権大会のレース実行委員長としての所感ということでニュースレターに記事を書くにあたり、まずは参加いただいた選手、準備に携わったテザー協会メンバーの方々、そして運営に当たっていただいた三重県ヨット連盟、レーザー津フリート、伊勢湾海洋スポーツセンターをはじめ多くの方々にお礼を申し上げます。

テザーフリートのない津での初めての協会公式レースでしたが、津の皆さんの暖かいホスピタリティとハイレベルなレース運営、そして恵まれたコンディションのおかげで、初日2レース、二日目3レースを実施することができ、参加した全員に印象に残る素晴らしい大会となりました。

11月19日、20日とも天候は晴れ、弱い冬型の気圧配置でした。第一日は出艇する頃から風が強くなり、終日320°～340°6～8m/sのブロー性(時に10m/s)のコンディションでした。第二日は午前中は3m/s程の微風で、300°～350°と振れるコンディションでしたが、12時過ぎより風が強まり、320°8m/s(ブローで10m/s)のコンディションとなりました。

私はレース中は二日間とも本部船に乗船しての観戦でしたが、強烈なブローに始まり、順風あり、風を拾いながらの微風あり、風の振れあり・・・すべてのコンディションを乗りこなす力量が要求される、全日本選手権にふさわしいシリーズになったと思います。

全5レースの結果(ワンカット有)として:
第1位 小松・小川組 葉山F 10点
第2位 長谷川・有木組 浜名湖F 12点
第3位 田中夫妻組 稲毛F 13点
第4位 野嶋・宮下組 葉山F 17点
第5位 本吉・神内組 葉山F 18点
第6位 秋山・高山組 琵琶湖F 20点
と大接戦となりましたが、強いブローのため多数の沈艇が出る中、上位艇は上りもリーチングも安定した走りであり、軽風下でもスピードを落とすことなく、スタートから風の振れを的確につかみ着実なレース展開を見せるなど、とても見応えのあるレースでした。

今回第20回の記念大会として、これまで実施していた「総合成績」、「マスタークラス」、「グランドマスタークラス」、「スーパーグランドマスタークラス」の各表彰に加えて、「フリート対抗成績」というのを試みました。まだ暫定なのですが、「3艇以

上参加したフリートの全参加艇の平均成績により算出する」ということになりました。今回は浜名湖フリートが優勝しましたが、「強風の浜名湖」という説を証明する結果になりました。このフリート対抗表彰は、フリート全体のレベル向上のターゲットとして今後も取り入れていければと思います。

今回の選手権においていくつか書き残して置きたかった点があるので、以下に記します。

まず参加艇の安全に関連してですが、11月の津は西～北西のオフショアの強風が予想されたため、現地の運営側と強風対策について事前に相談しました。その結果、テザー協会で救助用のアンカーとアンカーロープを準備し運営艇に搭載すること(各フリートから3本づつ準備いただきました)、また今回の大会に限ってのルールとして各レース艇には10mのパウラインを搭載し、一端をパウアイに固定すること(帆走指示書17.6)としました。パウラインはガムテープでパウデッキに固定する艇がほとんどで、特にセーリングに支障はなさそうでした。救助された艇がこのパウラインをどの程度活用出来たかはヒヤリング出来ていないのですが、今後のレースや練習時でも強風が予想される場合には、自主的に搭載するのもありかなと思います。運営艇へのアンカー準備については、初日において捜索が日没に及びつつも艇の回収につながった経緯もあり、三重県連の方々のレース運営における経験に非常に助けられた結果となりました。今後の我々のフリートレースでの運営にも生かしていけるとと思います。

今回運営艇としては本部船以外にジュリー含めて4艇のポートが使われ、洋上にはテザー協会のメンバー含めて25人強のスタッフが出していました。しかし強風下に沈艇の救助に回る運営艇が増えた結果、各マークでの周回記録を残すことが難しくなりました。結果として成績表の確定の遅れという問題が起きてしまいました。

12月の理事会で話も出たのですが、レースの正確性とトレース性を上げるという意味で、ハンディーGPSを使い、帆走レグを電子的に記録する試みがあちこちでされているそうです。クラスルールの問題や、費用の問題もあるのですが、メリットデメリット含めて導入を検討していくべきではないかと思いました。

初日の強風レースの後遺症?として、「登録しているクルー同士での参加したい(スキッパーの欠場)」、また「登録していない

クルーとの参加(混合チーム)にしたい」とのリクエストがレース委員会にありました。レース委員会の判断としては、テザークラスルールC.5.1へ抵触するとの判断より、上記の艇はオープン参加(順位はDNC)という形で参加を認めることとしました。

現実には、この決定が他の参加艇が出艇した後で公式掲示板に掲示された場合があり、先に出艇した選手からは、「どの艇がオープンなのか判らなかつた」との意見が出ました。結果としては、公式掲示の方法を工夫するか、オープン参加の艇だと明確に判断出来るような工夫があれば良かったと感じました。

最後に、初日のレースで出艇申告忘れの件です。帆走指示書「安全規定17.1」への違反ですが、レース委員会の判断により、レース委員長からの「厳重注意」という裁定となりました。厳密には該当艇は初日のレース全て失格となるのですが、世界選手権での罰金ルールがあること等も考慮し、帆走指示書の「抗議と救済の要求15.7」を適用することになりました。

私自身選手として参加しているときはあまり気にすることも無く記載している出艇申告なのですが、運営側に立つと、陸上本部と海上との連携を含めて、重要な情報だと再認識しました。というのも、実際初日の強風下において、本部船から洋上にいる艇数を把握するため何度も数えようとしたのですが、スタートラインから離れている艇や、遠くで沈んでいる艇がいて、これがなかなか難しかったのです。また数えることが出来たとしても出艇数との整合をスムーズに取ることが出来ないと、結果として安全が確保出来たのかどうかも判らず、焦ることがありました。

今回の成功は津の運営側とテザー協会全体での運営、選手のみならずのチームワーク連携が実を結んだ結果だと思えます。フリートのない海域に「テザーの楽しさ面白さを知っていただこう!」との試みも成功したものと思います。

このスペースではとても書ききれないのですが、最後に協会メンバーとして: 事前準備から三重県ヨット連盟、ハーバー、津市との交渉まで八面六臂の活躍いただいた川戸さん夫妻、初日の計測からレスキューまで大活躍の長野さんと側田さん、受付対応から支援艇SRVでのデジカメ+ビデオ撮影まで奮闘いただいた村尾さん、石丸さん夫妻、瀧本さん、楽しいパーティーを更に更に盛り上げていただいた多田さんと小沢さん、宿を調べていただいた白杵さん、素晴らしいトロフィーを手作りいただいた安澤さん、映像をDVDに編集していただいた新チャンピオン小松さん・・・にこの場を借りてお礼を申し上げます。

第20回 全日本選手権

2005年10月19日～20日 三重県 津

総合成績

順位	Sail No.	フリート/ 水域	スキッパー	クルー1	クルー2	クラス	R1		R2		R3		R4		R5		Cut	Total
							着順	得点	着順	得点	着順	得点	着順	得点	着順	得点		
1	2761	葉山	小松 充	小川 雅			2	2	6	6	5	5	2	2	1	1	6	10
2	2657	浜名湖	長谷川 勝啓	有木 洋介			1	1	1	1	8	8	9	9	2	2	9	12
3	2765	稲毛	田中 郁也	田中 紀子			3	3	DNF	36	1	1	6	6	3	3	36	13
4	2709	葉山	野嶋 嘉昭	宮下 知之			5	5	3	3	4	4	20	20	5	5	20	17
5	2395	葉山	本吉 謙治	神内 悠里			OCS	36	8	8	2	2	1	1	7	7	36	18
6	2663	琵琶湖	秋山 紀夫	高山 勝		M	9	9	4	4	3	3	16	16	4	4	16	20
7	2670	芦屋	内村 祥史	安澤 厚男		GM	8	8	7	7	11	11	4	4	8	8	11	27
8	2707	浜名湖	石塚 恒志	白岩 道孝		GM	6	6	2	2	17	17	15	15	9	9	17	32
9	2705	芦屋	植田 泰平	続木 政光			4	4	5	5	21	21	19	19	6	6	21	34
10	2725	大阪北港	池田 俊則	河野 信司	秋吉 寿美子	M	7	7	12	12	13	13	7	7	11	11	13	37
11	2739	博多湾	加野 靖紀	河野 恭子			11	11	11	11	9	9	10	10	DNF	36	36	41
12	2396	葉山	山本 晴之	中島 玲子			12	12	9	9	16	16	5	5	16	16	16	42
13	2620	津	川戸 仁	清水 孝眞		M	10	10	DNF	36	7	7	17	17	18	18	36	52
14	2738	大阪北港	三輪 記裕	更山 智博			16	16	13	13	20	20	13	13	13	13	20	55
15	2676	稲毛	金子 文雄	小沢 拓身		GM	14	14	DNS	36	18	18	14	14	10	10	36	56
16	2575	葉山	伊藤 雄一郎	石川 洋二		M	13	13	14	14	19	19	21	21	14	14	21	60
17	2720	葉山	建内 満	岡 誠			DNF	36	DNS	36	6	6	11	11	15	15	36	68
18	2470	浜名湖	箕浦 実	蜂須賀 強		M	DNF	36	10	10	26	26	22	22	12	12	36	70
19	2675	葉山	安原 実郎	戸田 隆久		SGM	17	17	DNF	36	23	23	3	3	DNF	36	36	79
20	2748	葉山	石原 裕二	本間 威			DNF	36	15	15	25	25	29	29	19	19	36	88
21	2653	大阪北港	多田 幸男	割石 順子		GM	DNF	36	DNS	36	10	10	8	8	DNF	36	36	90
22	2202	大阪北港	徳田 幹太	吉村 均		M	18	18	DNF	36	24	24	12	12	DNF	36	36	90
23	423	西宮	玉置 淳	柳田 美由紀	西村 美紀		DNF	36	DNS	36	14	14	24	24	17	17	36	91
24	2615	葉山	田口 裕介	森 理子			DNS	36	DNS	36	12	12	23	23	DNS	36	36	107
25	2203	葉山	外石 満	矢柴 明美	城重 晶子		DNF	36	DNS	36	15	15	25	25	DNF	36	36	112
26	2764	芦屋	中西 英貴	中西 美紀			DNF	36	DNF	36	22	22	18	18	DNF	36	36	112
27	2453	葉山	野本 雅史	荒島 謙治			DNF	36	DNS	36	28	28	28	28	20	20	36	112
28	2457	西宮	中村 博士	松原 茂樹	山崎 映子		15	15	DNF	36	DNC	36	DNC	36	DNC	36	36	123
29	2726	葉山	伊藤 真人	瀧 隆太			DNS	36	DNS	36	27	27	26	26	DNF	36	36	125
30	2609	葉山	田中 剛	大橋 武史			DNF	36	DNS	36	29	29	27	27	DNF	36	36	128
31	2552	葉山	多井 堅一郎	町田 亜紀			DNF	36	DNS	36	DNC	36	DNC	36	DNC	36	36	144
31	2743	大阪北港	臼杵 辰朗	鳥井 純子		M	DNS	36	DNS	36	DNC	36	DNC	36	DNC	36	36	144
31	2534	芦屋	佐藤 和紀	鈴木 章弘			DNF	36	DNF	36	DNC	36	DNC	36	DNC	36	36	144
31	2660	芦屋	下村 晃司	栄西 理恵			DNF	36	DNS	36	DNC	36	DNC	36	DNC	36	36	144
31	2735	稲毛	宮本 哲生	大藪 亮			DNC	36	DNC	36	DNC	36	DNC	36	DNC	36	36	144

クラス別成績

マスタークラス (スキッパー、クルーの合計年齢 80 歳以上)

順位	Sail No.	フリート/水域	スキッパー	クルー1	クルー2	R1		R2		R3		R4		R5		Cut	Total
						着順	得点	着順	得点	着順	得点	着順	得点	着順	得点		
1	2663	琵琶湖	秋山 紀夫	高山 勝		2	2	1	1	1	1	3	3	1	1	3	5
2	2725	大阪北港	池田 俊則	河野 信司	秋吉 寿美子	1	1	3	3	3	3	1	1	2	2	3	7
3	2620	津	川戸 仁	清水 孝眞		3	3	DNF	8	2	2	4	4	5	5	8	14
4	2575	葉山	伊藤 雄一郎	石川 洋二		4	4	4	4	4	4	5	5	4	4	5	16
5	2470	浜名湖	箕浦 実	蜂須賀 強		DNF	8	2	2	6	6	6	6	3	3	8	17
6	2202	大阪北港	徳田 幹太	吉村 均		5	5	DNF	8	5	5	2	2	DNF	8	8	20
7	2743	大阪北港	白杵 辰朗	鳥井 純子		DNS	8	DNS	8	DNC	8	DNC	8	DNC	8	8	32

グランドマスタークラス (スキッパー、クルーの合計年齢 100 歳以上)

順位	Sail No.	フリート/水域	スキッパー	クルー1	クルー2	R1		R2		R3		R4		R5		Cut	Total
						着順	得点	着順	得点	着順	得点	着順	得点	着順	得点		
1	2670	芦屋	内村 祥史	安澤 厚男		2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	2	6
2	2707	浜名湖	石塚 恒志	白岩 道孝		1	1	1	1	3	3	4	4	2	2	4	7
3	2653	大阪北港	多田 幸男	割石 順子		DNF	5	DNS	5	1	1	2	2	DNF	5	5	13
4	2676	稲毛	金子 文雄	小沢 拓身		3	3	DNS	5	4	4	3	3	3	3	5	13

スーパーグランドマスタークラス (スキッパー、クルーの合計年齢 120 歳以上)

順位	Sail No.	フリート/水域	スキッパー	クルー1	クルー2	R1		R2		R3		R4		R5		Cut	Total
						着順	得点	着順	得点	着順	得点	着順	得点	着順	得点		
1	2675	葉山	安原 実郎	戸田 隆久		1	1	DNF	2	1	1	1	1	DNF	2	2	5

フリート対抗成績

3 艇以上参加のフリートで、参加艇の平均得点。

3 艇未満のフリートは「その他」

順位	フリート名	参加艇数	総得点	平均得点
1	浜名湖	3	114	38.00
2	その他	5	327	65.40
3	稲毛	3	213	71.00
4	葉山	14	1110	79.29
5	芦屋	5	400	80.00
6	大阪北港	5	416	83.20



マイラーセール導入と クラスルール変更を賛成多数で可決

昨年ダーウィンのワールドカウンシルで提示されたマイラーセール導入とそれに伴うクラスルール変更提案は、世界の各地域で投票の結果、全地域の賛成多数で可決され、マイラーセールの導入が決定しました。日本でも11月19日に津の全日本選手権大会期間中に開かれた総会で投票が行われ、賛成多数で可決されました。

マイラーセール導入

昨年8月以降、各フリーでマイラーセールのテストセーリングを行い、主だった人たちにその評価レポートを書いてもらいました。9月にはメーリングリストでマイラーセールに関するアンケートを行いました。十分な評価をするには短い期間でしたが、11月の総会でマイラーセール導入に

対する投票を行った次第です。同時に、ハルウェイトの下限重量を68kgとするクラスルール変更も可決されました。変更されたクラスルールは2006年1月3日にISAFの承認を受け、直ちに有効となりました。新しいクラスルールはこちらです。

<http://www.members.shaw.ca/raspencer/association/worldassoc/rules/isafrules.html>

日本語サイトは近日中に更新予定です。



Photo by World Tasar Class Association

総会後に開かれた理事会で今後のレガッタへの適用について検討を行い、改正されたクラスルールが発効した時点からマイラーセールの公式レースに使用できることを確認しました。当分の間、従来のダクロンセールと混在することが想定されますが、改正されたクラスルールに従ってレースの成績は着順のみとすることを確認しました。

ダクロンとマイラーセールではパフォーマンスに違いがあるとされていますが、敢えてハンディキャップシステムを導入せず、着順のみで順位をつけることにしました。

今回のマイラーセールへの切り替えは、30年前にテザーが開発されて以来はじめての大きな仕様変更となります。セール素材と仕様変更に対してワンデザインクラスを維持する上で懸念する向きもありますが、長い目で見てテザークラスが今後とも発展していくためにはマイラーセールの導入が望ましいという考えが日本も含めて世界的に多数を占めました。マイラーセールの導入が決定された以上は、移行期間の混乱を最小限にとどめ、できるだけスムーズに新しい仕様を受け入れることが肝要と思われます。改正された新ルールの精神を尊重したレース運営を行うことがマイラーセールへのスムーズな移行に有効だと判断しました。テザーが将来に向けてさらに魅力的なクラスとして飛躍するために、皆様のご理解と前向きな取り組みを心よりお願いいたします。マイラーセールは今年3月からパフォーマンス・セイルクラフト・ジャパンで取り扱いを開始することになっています。マイラーセールの販売予定や価格については近日中にパフォーマンスから案内されるものと思われます。初回まとまった数量を購入することについても協会として可能性を検討したいと思います。

クルーウェイト国内ルールを継続

2003年全日本の総会でクルーウェイトルール(C.6)を国内の大会では適用しないことを決議し、2004年以降はC.6を適用していません。今回の総会でもこの国内ルールを継続するかどうかについて検討しました。その結果、2006年以降もC.6を適用しないという国内ルールを継続することになりました。



s.i

連載

スマートレースのススメ

第5回 【コラム】全日本での出来事

Text by Ikuya Tanaka

皆さんご存知のように、田中ご夫妻は海外赴任に伴いタイへ転居されました。第5回目は赴任間もない田中さんから届いたのコラムを掲載します。

バンコクからの投稿です。この連載も確か今回で5回目となります。前回は自分としては力の入ったワールドレポートを書いたので、お休みをしてしまいました。これまで、スタート前、上りレグ、上マーク廻航などを取り上げてきました。残りは下マーク廻航や下りでのルールを取り上げたいと思います。しかし、ルールブックを含めた私のネタ本は船便で送った荷物の中なので、まだ到着していません。早めに準備しておけばと言われればその通りですがご容赦願います。

今回は津でのレース中のシーンを取り上げたいと思います。全日本2日目の最終レースでのスタート場面でのことです。2日目は前日と同様気温は低めでしたが、風は弱く何となく気の抜けたコンディションでした。3本目となる最終レースのスタート予告信号がもうすぐあがるかなという時、今までの多少緩んでいた空気が一変、風が急に冷たくなりました。それからあっという間に吹きあがりしました。さすが鈴鹿の風です。

このレースのスタートは風が強く、軽くて止まりやすいテザーは艇団全体が低い位置に流されていました。自艇は、下エンドから出ようと最初は高めの位置にいましたが、心配になって30秒くらい前に少し下げました。これが失敗で、アウトターをクリアできない位置となり、スタート信号と同時にタックを返すことになりました。高い位置にいたスターボの2663艇秋山スキッパーから強烈なコールをもらい、その次の船までかわせそうに無かったので結局タック。2663艇のタックを待って、タックする羽目に。このときに更に下側の位置からポートタックでラインを横切ろうしていた2705植田艇が接近していましたが、全く下側はケ

アしていませんでした。自艇のタックは、スピードが無かったためタックが完了した時にはほとんど止まった状態となり、クリア・アスターンの位置から接近してきた2705艇は追突をさけるために自艇のスターンを下側にかわしました。2705艇のクルーからは不満の意のこもった声を掛けられました。

以上が私が記憶している事実です。タッキング中のヨットはそうでない艇を避けなければならない、自艇はこのルールに違反していました。速やかに他の艇から離れて、ペナルティを履行すべきでした。しかし、レース中のこのとき

はスタート時のごたごたで冷静さを欠き、急に吹き上がった強風コンディションということもあり熱くなっていました。その結果、「タックが完了していたといえるのではないか」、「プロテストという声は掛けられていない」と自艇の正当性を強弁するような思考をしてしまい、ペナルティを履行しませんでした。



2日目最終レースのスタートシーン

これは悪い見本であり、私の反省文です。どういう状況であっても、ルールの適用関係を客観的に冷静に判断していけるようになりたいと思います。



田中 郁也 Ikuya Tanaka

A級ジャッジ
ナショナル・レースオフィサー
福岡県出身 昭和39年11月3日生まれ

県立修猷館高校時代FJ級でヨットを始める。(インターハイ同期にはプロセラーの脇永達也さん、単独世界一周をした今給黎教子さんなど)。大阪大学体育会ヨット部では470級インカレ団体戦3位。1993年9月に2572を購入し、妻紀子さんとテザーを始める。全日本93、95、96、01、03、04年優勝。世界選手権94年Brixham7位、96年Gorge18位、99年浜名湖2位、01年Whitstable23位、05年Darwin3位(海外のワールドで日本人最高位)

次回のワールドの候補地は？ 本吉謙治

洪水、パンク、風邪、DSQ、イエローフラッグ、OCS、DNC...以上が今夏開催されたダーウィンワールドに

おける私の大会総括です。こうして書き出してみると惨々な様ですが、悪いことばかりでもありませんでした。オーストラリアからの帰途、私の搭乗券は何故か自動改札ではじかれてしまい、おかげでシャンパンを片手にスーパーシートにもたれてゴージャスな空の旅を満喫しました。

ところでワールドから早くも半年が過ぎようとしています。大会期間中に開かれたWTCミーティングに於いて、次回ワールドの開催地に関する話し合いがなされました。これを受けて現在もハワイ(KANEOHE Y.C)、タイ、西オーストラリア(パース)を対象に検討が進められています。春には最終結論が導き出されているものと思います。

2008年もしくは2009年には日本での開催が予定されています。この為の準備委員会を立ち上げたいと考えています。どなたかお手伝いしていただける方がいらっしゃいましたら、協会あるいは直接本吉までお知らせ下さい。

Winter Conditioning! ～筋トレのお話～

NATA (北米テザー協会) ニュースレター 2006 よい

シーズンオフの筋力トレーニングは、筋肉強化、代謝機能向上、疾病リスク減少の観点から重要です。運動としては、ヨガやピラティス、バランスボール、BOSU(半球型)、ウォールシット、腹筋、腕立て伏せなどがお勧めです。

ここで取り上げられているのは、バランスボールによるトレーニングです。これはテザーの動きによく似ているそうです。みなさんも試してみたいはいかが？

☆バランスボール・トレーニング

●腹筋

膝立ちをしてバランスボールの上に腕を乗せ、前後に往復する。

●腕

仰向けになり、肩をバランスボールに乗せて、ダンベルを持った腕を垂直～水平の間でゆっくり繰り返し動かす。

北米協会ニュースレター 2006 Winter
http://www.members.shaw.ca/tasar3/pdf/2006/nl_all.pdf

各地のレース結果

オーストラリア

ACT Tasar Championships 2005

YMCA Sailing Club, Canberra, Australian Capital Territory
2005.11.26-27

上位成績

- 1 2482 Martin Linsley/Bruce Eddes
- 2 2475 Rick Longbottom/Chloe Wilson
- 3 2237 Darryl Bentley/Andrew Foulkes

NSW Short Course Championships 05-06 Round 1

Bethwaite Skiff Series 05-06 Round 2

Woollahra Sailing Club, Sydney, NSW
2005.12.10-11

上位成績

- 1 2710 Robert Douglass/Nicole Douglass
- 2 2127 Jenny Sumsion/Martin Gill
- 3 2665 Chris Parkinson/Darryl Bentley

33rd Australian Tasar Championships

Lake Macquarie Yacht Club, Belmont, NSW
2005.12.28-2006.1.4

上位成績

- 1 2710 R Douglass/N Douglass
- 2 2742 P Ridgway/B Ridgway
- 3 2601 D Warne/G Warne

イギリス

Scottish Open

Loch Earn Sailing Club

2005.9.22-23

上位成績

- 1 Graeme Busby/Duncan Bond
- 2 Colin & Mandy Tait
- 3 Graham Donaldson & C Donaldson

北米

CYC Turkey Bowl Regatta

Shilshole Bay, WA

2005.11.19-20

上位成績

- 1 2398 Carol Buchan/Carl Buchan
- 2 2678 Andrew Schmidt/Erin Harkins
- 3 2397 Bruce Gage/Indi Gage

【会費納入のお願い】

2005年度分の会費はお早めに下記までお振込みください。

2005 年度会費

(2006年3月末迄有効)

振込先:

東京三菱銀行

逗子出張所(店番 628)

普通 0495369

日本テザー協会 小松 充

(振込み依頼人名は必ず会員本人のお名前をお願いいたします)

年会費:

個人会員	5,000 円
個人3年会員	14,000 円
家族会員	3,000 円

<会費納入についての問合せ先>

会計 小松

メール: kaikei@tasarjapan.org

【住所変更について】

住所等の登録事項に変更がありましたら、下記国内事務局までご連絡ください。協会ウェブサイトでも住所変更用フォームが利用可能です。

【入会のご案内】

一緒にテザーを楽しみませんか?日本テザー協会では随時入会を受付けています。入会をご希望の方は、メールフォームまたは所定の申込用紙にてご連絡の上、左記口座に会費をお振込みください。振込が確認された時点で登録とさせていただきます。

ご不明な点は国内事務局までお問合せください。

<新規入会及び住所変更用フォーム>

<http://tasarjapan.org/membership/registration.html>

<会員登録についての問合せ先>

国内事務局 山床

メール: info@tasarjapan.org

【JSAFの登録について】

JSAF(日本セーリング連盟)会員登録のテザー協会担当者が下記のとおり変更となりました。JSAFへの加入は、協会加入と共に全日本選手権の出場資格となります。登録ご希望の方は下記までお申込みください。

<JSAF 登録の申込み先>

稲毛フリースト 亀山

メール: h-kame@mub.biglobe.ne.jp

【TasarNews】ではみなさんからの便りを募集中です。フリーストの結果やローカルイベントのレポート、新しいメンバの紹介やニュー皆さんの身近なテザーライフをご紹介します。また、TasarNewsに関する感想やご意見も合わせてお寄せください。

楽しいお便りをお待ちしています。

JTA 広報チーム

mail: publicity@tasarjapan.org
まで

お便り
大募集

イベント、セーバーの紹介など、近なテ

Tasar News Vol.85

2006年1月発行

日本テザー協会

代表 本吉謙治

〒107-0062

東京都港区南青山3-3-10-102

Edit/Design

Sumiko Ishimaru

Staff

Makoto Oka

Mahoro Sekiguchi

Contact

事務局

info@tasarjapan.org

イベント

event@tasarjapan.org

メジャー

measurer@tasarjapan.org

会計

kaikei@tasarjapan.org

広報

publicity@tasarjapan.org

編集後記 Editor's Note

私の担当する最後のニュースレターが完成しました。今、朝日が射し込むパソコン部屋で満ち足りた気持ちでいます~(笑)。確かにホッとしていますが、最終ページが近づくにつれ少し寂しい気も。レター作成は私の元気のミナモトでもあったみたいです。協会の広報になって気付いた事は...。私が知らなくてもみんなが自分のことを知っている!という驚愕の事

実です。レターをリリースし、編集後記にアホな事を書き続け、メールをこれでもかというくらい配信し続ければ当然ですが。何をしてもどこにいても次のレターの事が頭から離れず、思えばレター漬けの4年間。なんでもクリエイティブな事が好きな私は、

レターやウェブサイトづくりに没頭した4年間は、振り返ってみれば広報活動というより楽しい制作活動でした。

レター制作で一番楽しかった作業は、毎回の表紙写真の選定です。写真は全くの素人



ながら、構図、海の雰囲気、乗り手の表情などを見て10枚ほど選び、実際にレイアウトして絞り込んでいきます。最後の決断でどうしても悩み、何日も表紙ばかり見つめていた事も(阿呆)「遊び」の「仕事」をボランティアで

やるからには恨み言は言わずとにかく楽しんでやろう!という初心は、どうやら貫く事ができたみたいです。

写真は、ハッピーコ広報委員長を影で支えてくれた、超!クレーバーな広報委員・岡君。レ

ターの校正や海外情報の収集、レースの成績表リリースなど大車輪でした!岡君が旅行に出かけるというので、本当は一週間前に完成させて出発前に校正を頼むはずだったのに、例によって大幅に遅れてしまいました。ゴメン!&今までもどうもありがとう。お礼に、もし

私が宝くじ当たったら半分あげます。(買ってはないけど)

4月からはまた葉山の片隅でテザーに乗るお姉さん(注:オバサンではない)で行きます~。

(Ishimaru)